

AWS Managed Container Service ECS or EKS or ROSA ??

Red Hat K.K. 2023.07



AWS上でのコンテナサービスの選択肢

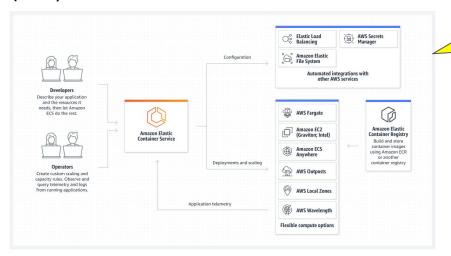
https://aws.amazon.com/jp/getting-started/decision-guides/containers-on-aws-how-to-choose/

 ページの内容 はじめに 理解 検討事項 選択 使用 詳しく見る 	コンテナ	使用するタイミングは?	どのような用途に最適化されて いますか?	関連するコンテナサービスまた はツール
	容量 ▼	セルフマネージド型の AWS 仮想マ シンや AWS マネージドコンピュー ティングでコンテナを実行する場合 に使用します。		AWS Fargate ▼ Amazon EC2
	オーケストレーション ▼	最大数千のコンテナをデプロイして 管理する必要がある場合に使用しま す。	AWS でコンテナ化されたアプリケーションをデプロイ、管理、スケーリングするのに最適化されています。	Amazon ECS Amazon Elastic Kubernetes Service Red Hat OpenShift Service on AWS (ROSA)
マーションサービス フォーカス	プロビジョニング	ユーザーや自身のチームがコンテナ やインフラストラクチャを使用した 経験があまりない場合に使用しま す。	使いやすさを考慮して最適化されて います。	AWS App Runner ▼ Amazon Lightsail ▼ AWS Elastic Beanstalk ▼
	ツール・	コンテナレジストリを提供するだけ でなく、既存のアプリケーションを コンテナ化および移行するツールが 必要な場合に使用します。		Amazon Elastic Container Registry ▼
	オンプレミス マ	使い慣れたコントロールプレーンを 実行する必要がある場合に使用する と、コンテナベースのアプリケーシ ョンがどこで実行されていても一貫 したエクスペリエンスを実現できま す。	コンテナベースのアプリケーション を実行する場所に柔軟性を持たせる ように最適化されています。	Amazon Elastic Container Service (ECS) Anywhere ▼ Amazon EKS Anywhere ▼ Amazon EKS Distro ▼



Amazon ECS

- ▼ネージドのコンテナオーケストレーションサービス
- AWSネイティブな方法で、Dockerフォーマットのコンテナの大規模実行が可能
 - 様々なAWSサービスとの連携を、迅速に設定して利用可能
 - コンテナクラスター利用料金が無いことによる、コスト最適化が可能
 - コントロールプレーンは完全に管理され、利用者によるアップグレードなどの対応は不要
- AWS上でのアプリケーションを開発/実行するユースケースを想定
 - CNCF(後述)のプロジェクトを利用したい Kubernetesユーザーには非推奨



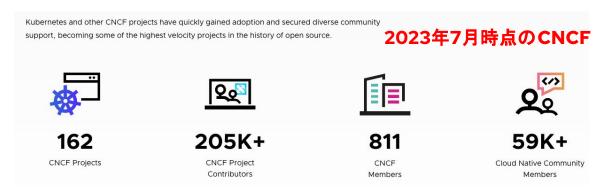
様々なAWSサービス との連携が可能



Cloud Native Computing Foundation (CNCF)

https://www.cncf.io/about/who-we-are/

- CNCFはクラウドネイティブコンピューティング技術を推進する非営利団体であり、 Linux Foundationプロジェクトの1つ
- 2015年のGoogleによるKubernetes v1発表と同時に、CNCFも発表
 - o https://cloudplatform.googleblog.com/2015/07/Kubernetes-V1-Released.html
- AWSとRed Hatを含む多くの企業が参画しており、業界標準ソフトウェアとなっているKubernetesの発展と密接にリンク
- Amazon EKSの提供は、AWS顧客のKubernetesサービス需要によるもの
 - https://aws.amazon.com/jp/blogs/opensource/cloud-native-computing/





Amazon EKS

https://aws.amazon.com/jp/eks/

AWS クラウドおよびオンプレで Kubernetes を実行するためのマネージド Kubernetes サービス





Red Hat OpenShift & Red Hat OpenShift Service on AWS (ROSA)

https://www.redhat.com/ja/technologies/cloud-computing/openshift/red-hat-openshift-kubernetes

- Red Hat OpenShift
 - o Red Hat Enterprise Linux (RHEL) と並ぶ主力製品の1つ
 - RHELと統合されており、RHELをベースとしたコンテナ専用OSの上で動作
 - o Kubernetesがベース
 - エンタープライズシステムで必要となる、様々な開発/運用関連の機能が統合
 - 前述のCNCFプロジェクトの機能を多数搭載
- ROSA
 - AWS上のマネージドOpenShiftサービス
 - Red HatとAWSによるサポートを提供





サービス基盤の機能実装に必要なAWSサービス

ROSAにより、基盤構築に必要な時間の短縮が可能

ROSA提供の OpenShift標準機能 を利用可能

EKSからそのサービスを利用する場合、 EKSクラスター内での、 AWSIAMを利用する設定が別途必要 Dashboard Developer IDE/tools **Build Automation** Pipeline (CI) Deployment Automation (CD) Serverless Service Mesh Monitoring Kubernetesによる システム作り込み時に Logging 必要な主要機能 Registry Orchestration

Copyright 2023 Red Hat K.K.

Infrastructure

要件に応じたAWSサービスの取捨選択と、

Amazon EKSを使う場合 **Amazon EKS Console** AWS Cloud9 / **Amazon CodeCatalyst** AWS CodeBuild **AWS CodePipeline** AWS Lambda AWS AppMesh / AWS X-Ray **Amazon Managed Service** for Prometheus **Amazon CloudWatch Amazon ECR Amazon EKS AWS Compute Resources**

ROSAを使う場合 ROSA 標準機能 **Built in Console OpenShift Dev Spaces** S2i (Source-to-Image) Build **OpenShift Pipelines Openshift GitOps OpenShift Serverless OpenShift Service Mesh OpenShift Monitoring OpenShift Logging OpenShift Internal Registry Kubernetes AWS Compute Resources**

OpenShiftでは、統合され た認証/認可機能により、 各標準機能を利用するため の権限設定がデフォルトで 適用済み

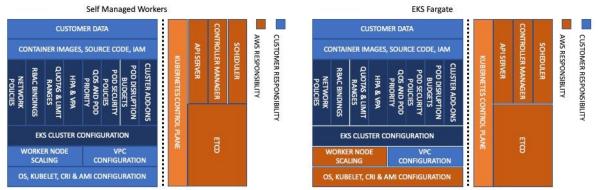


Red Hat

Amazon EKS Shared Responsibility Model

https://aws.github.io/aws-eks-best-practices/security/docs/

- AWSが管理/サポート
 - o Amazon EKS コントロールプレーン
 - o Amazon EKS ワーカーノード (Fargate, Managed Node Groups)
 - Amazon EKS アドオン (CoreDNS, Kube-proxyなど)
- ユーザーが管理※
 - Amazon EKS ワーカーノード (Self Managed Workers)
 - EKSに含まれない、CNCFなどが提供するKubernetes (K8s) 用アドオン
 - o K8sのセキュリティ設定 (Pod, Image, Network, RBAC, Multi-tenancyなど)
 - ユーザーアプリやデータ、および、それらの実行基盤となるコンテナ上のミドルウェア



※ 各AWSサービスの利用支援や障害復旧はAWSがサポートしますが、EKSへの統合や更新は、ユーザーが実施する必要があります。



EKSは、Kubernetesクラスターの管理を、 一部委任したいという希望者向けのサービス

(クラスターの作成/削除/更新をセルフサービスで実施可能)

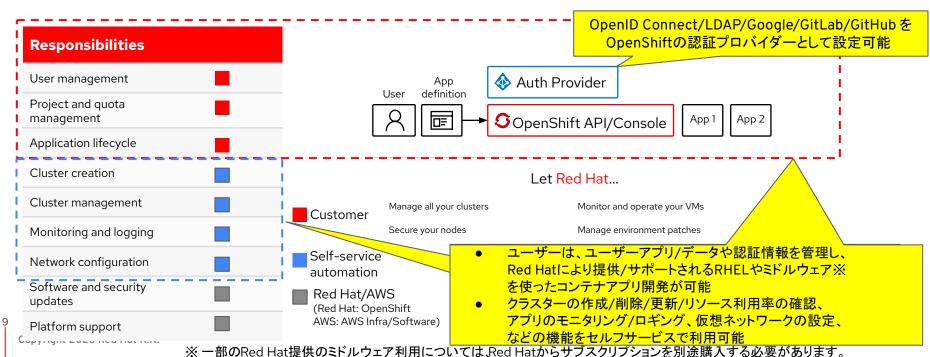
ROSA Shared Responsibility Model

https://docs.openshift.com/rosa/rosa architecture/rosa policy service definition/rosa-policy-responsibility-matrix.html

Red HatとAWSが管理/サポート

ROSAは、KubernetesからコンテナのOS、 ミドルウェアまでの統合サポートの希望者向けのサービス

- コントロールプレーン/ワーカーノード、K8s Network/DNS関連機能、ロードバランサーを含めたクラスター管理
- OpenShiftは予めセキュリティが強化された8sとして設定され、Red Hatがその利用をサポート (Pod, Image, Network, RBAC, Multi-tenancy, ホストOS など)



EKS/ROSA ライフサイクル (2023年7月時点)

EKS: 最低14ヶ月※、ROSA: 16ヶ月のサポートを提供

Kubernetes Version	Upstream release	EKS release	EKS End of Life
1.27	2023年4月11日	2023年5月24日	2024年7月
1.26	2022年12月9日	2023年4月11日	2024年6月
1.25	2022年8月23日	2023年2月22日	2024年5月
1.24	2022年5月3日	2022年11月15日	2024年1月
1.23	2021年12月7日	2022年8月11日	2023年10月11日

Kubernetes version	ROSA Version	ROSA release	ROSA End of Life
1.26	4.13	2023年5月17日	2024年9月17日
1.25	4.12	2023年1月17日	2024年5月17日
1.24	4.11	2022年8月10日	2023年12月10日
1.23	4.10	2022年3月10日	2023年9月10日

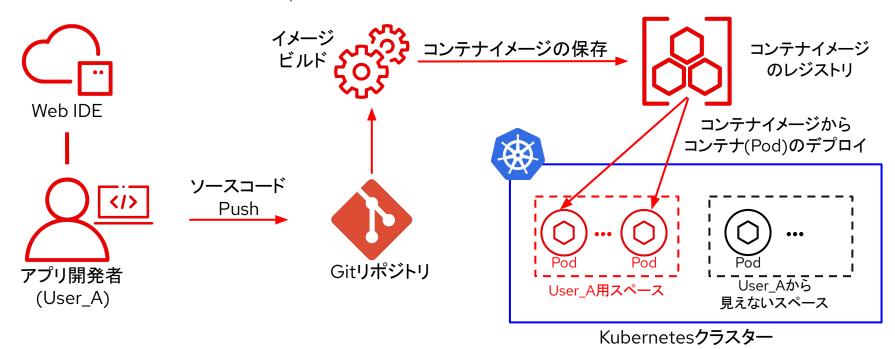


EKS/ROSA サンプルユースケース その1



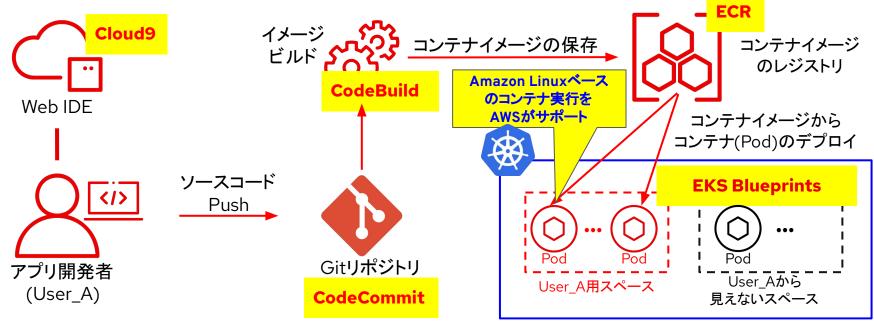
EKS/ROSA のサンプルユースケース その1

- Web IDEを使ったコンテナアプリの開発とデプロイ
- 開発者は、自分の開発/デプロイしたコンテナアプリしか見えない状態を想定



EKSを使う場合のイメージ

- 他のAWSサービス (AWS Cloud9/CodeCommit/CodeBuild/ECR) を合わせて利用
- EKSのマルチテナント化には、EKS Blueprints※というオープンソースプロジェクトを利用可能
- 各AWSサービスを利用するためのAWS IAM設定(認証/認可)と、ユーザーごとに参照可能なECRレジストリの制限をかける場合、AWS IAM設定/ポリシーによるフィルタリングと、Kubernetesクラスター内でのIAM利用設定が別途必要

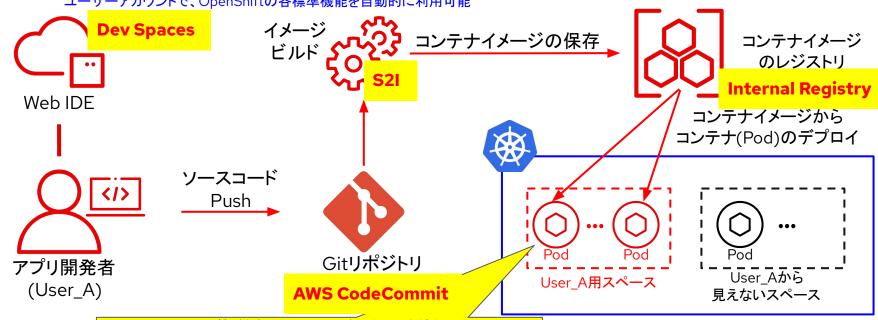


Kubernetesクラスター



ROSAを使う場合のイメージ

- ROSAにあるOpenShift標準機能 (OpenShift Dev Spaces/S2I/Internal Registry)を利用
- Gitリポジトリには、AWS CodeCommitを利用 (AWS IAM設定が必要)
- OpenShiftではマルチテナント化を考慮しており、ユーザーごとのスペースやレジストリがデフォルトで隔離済み
- OpenShiftに統合された認証/認可機能により、OpenShiftクラスターと連携した認証プロバイダー(OpenID Connectなど)の ユーザーアカウントで、OpenShiftの各標準機能を自動的に利用可能



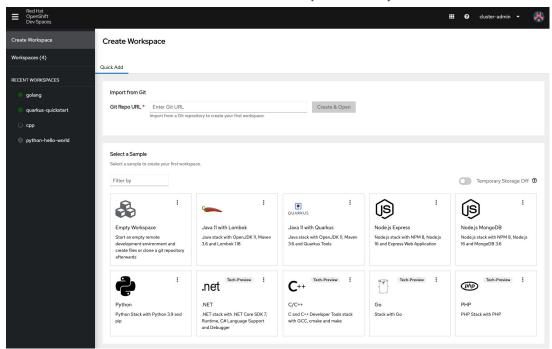
Red Hatが提供するRHELやミドルウェアを使う場合、 コンテナ実行もRed Hatがサポート (EKS上ではNon-Supported) ※ Amazon Linuxを使う場合は、AWSがサポートを提供

Kubernetesクラスター (OpenShift)



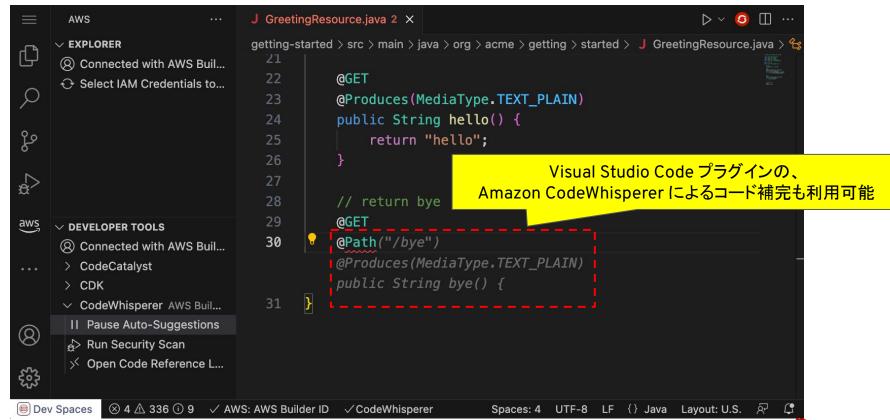
OpenShift Dev Spaces用のテンプレート

- 標準テンプレートの他に、カスタマイズされたWeb IDEも利用可能
- カスタマイズには専用のテンプレート(Devfile)※を利用

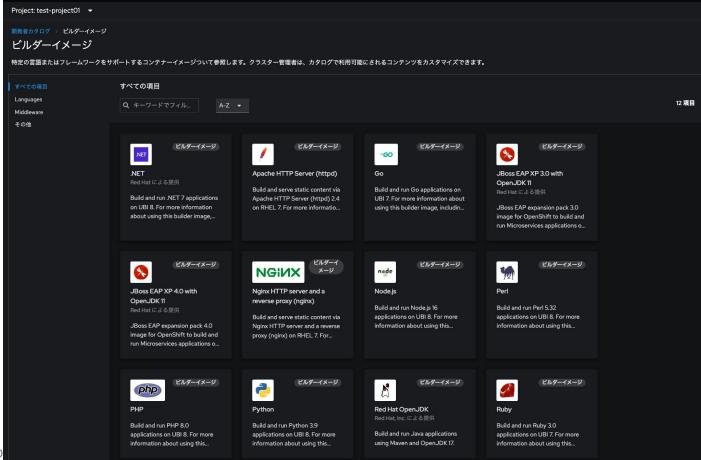




OpenShift Dev Spacesの画面 (Visual Studio Code的な Web IDE)

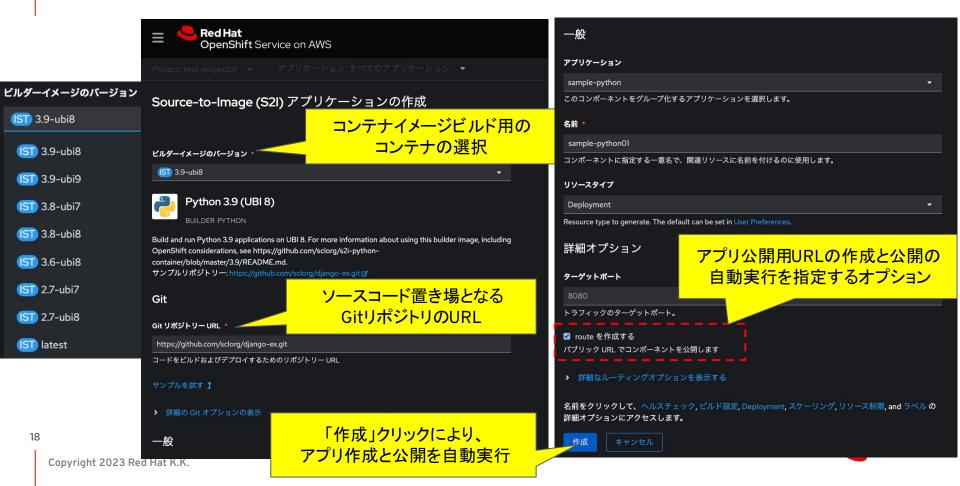


OpenShift S2I に利用可能なカタログ





OpenShift S2I の画面



OpenShift上のアプリケーショントポロジー (ユーザーは、作成したアプリケーションの様々な情報を確認可能)



EKS/ROSA 利用時の月額(730時間)料金イメージ その1

※ ROSAのHosted Control Planeでは、ユーザーのAWSアカウント上にあるInfra/Control のEC2インスタンスが無くなり、料金請求も発生しなくなります。

- AWSの東京リージョンのMulti-AZ構成を想定 (ワーカーノードが3台構成)
- EKSではManaged Node Group (EC2インスタンス)の利用を想定
- 計算の簡単化のために、EKS/ROSA共に利用が想定される NAT Gateway, AWS Load Balancer, Route53のサービス利用料金や、AWS内外でのデータ転送利用料金などを除外
- AWS CodeCommit は無料利用枠の利用を想定

AWSサービス	利用料金 (USD)
EKS (0.10USD/hour/cluster)	73 (0.10 x 730)
EC2 インスタンス (Worker) (m5.xlarge x3, 0.248USD/hour EBS(gp3): 300GB, 0.08USD/GB/month)	615.12 (0.248 x 3 x 730 + 300 x 3 x 0.08)
Cloud9用 EC2インスタンス (共有環境 m5.large(2vCPU, メモリ8GB) x3, EBS(gp3): 100GB)	295.56 (0.124 x 3 x 730 + 100 x 3 x 0.08)
CodeBuild (16時間/monthのビルドを想定 ビルド用インスタンス generall.medium (4vCPU, 7GB), 0.60USD/hour)	9.6 (0.6 x 16)
ECR (計100GBのイメージ保存を想定 保存料金 0.10USD/GB/month)	10 (0.1 x 100)

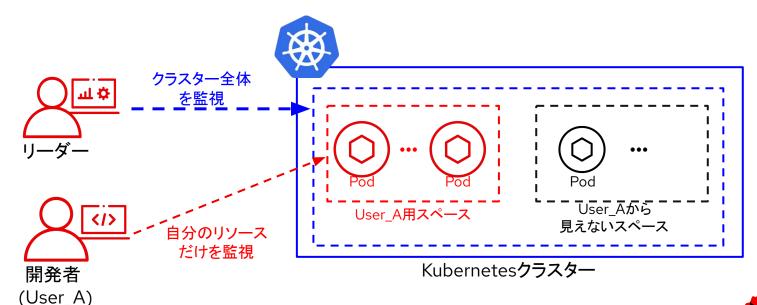
AWSサービス	利用料金 (USD)
ROSA サービス料金 (Cluster fee: 0.03USD/hour/cluster Worker Node service fee: 0.17IUSD/4vCPU/hour)	396.39 (0.03 x 730 + 0.171 x 3 x 730)
EC2 インスタンス (Worker) (m5.xlarge x3, 0.248USD/hour EBS(gp3): 300GB, 0.08USD/GB/month)	615.12 (0.248 x 3 x 730 + 300 x 3 x 0.08)
EC2 インスタンス (Infra)※ (r5.xlarge x3, 0.304USD/hour EBS(gp3): 300GB, 0.08USD/GB/month)	737.76 (0.304 x 3 x 730 + 300 x 3 x 0.08)
EC2 インスタンス (Control)※ (m5.2xlarge x3, 0.496USD/hour EBS(Provisioned io1): 350GB, 0.142USD/GB/month)	1235.34 (0.496 x 3 x 730 + 350 x 3 x 0.142)
S3 (Internal Registryのバックエンド) (計100GBのイメージ保存を想定 保存料金 0.025USD/GB/month)	2.5 (0.025 x 100)

EKS/ROSA サンプルユースケース その2



EKS/ROSA のサンプルユースケース その2

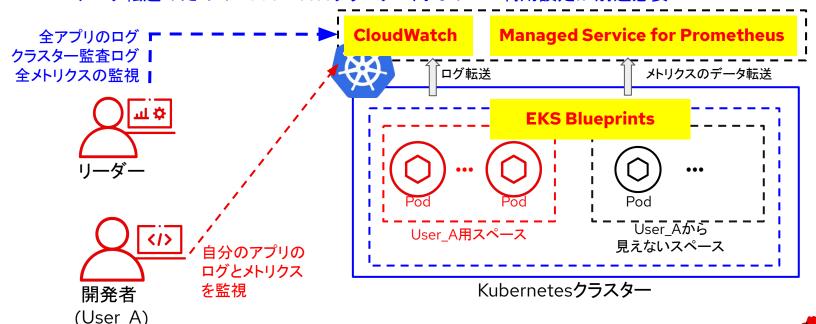
- Kubernetesクラスターのロギングとモニタリングを設定 /利用
- 開発部門のリーダーは、クラスター全体ログの集約や、アプリを実行するワーカーノードを中心としたクラスター全体のリソース (CPU/メモリなど)利用率を監視
- 開発者は、自分のスペースにあるアプリログやリソース利用率を監視





EKSを使う場合のイメージ

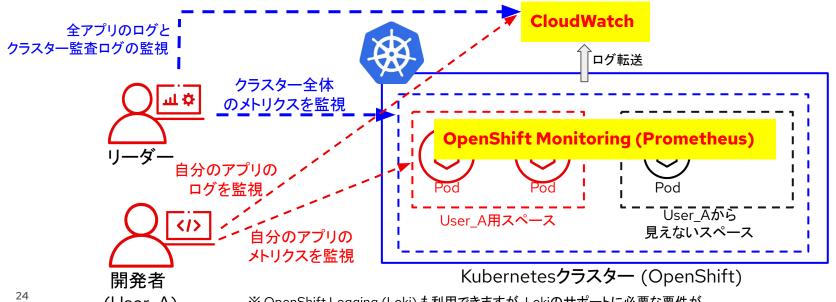
- ロギングには、Amazon CloudWatchを利用 (AWS CLIによるログのダウンロードも可能)
- モニタリングには、Amazon Managed Service for Prometheus (AMP) を利用
- CloudWatch/AMPを利用するための、AWS IAM設定/ポリシーによるフィルタリングや、 データ転送のための Kubernetesクラスター内での IAM利用設定が別途必要





ROSAを使う場合のイメージ

- ロギングには、Amazon CloudWatch を利用※
- モニタリングには、ROSAのデフォルトで有効化されているPrometehusを利用
- Amazon CloudWatchを利用するためのAWS IAM設定と、IAMポリシーによるフィルタリングが別途必要
 - OpenShift Logging Operatorによる、AWS IAM 認証情報を利用したログ転送を設定
- OpenShiftクラスターと連携した認証プロバイダーのユーザーアカウントが、 管理するリソース利用率だけが見えるような設定が、デフォルトで適用済み

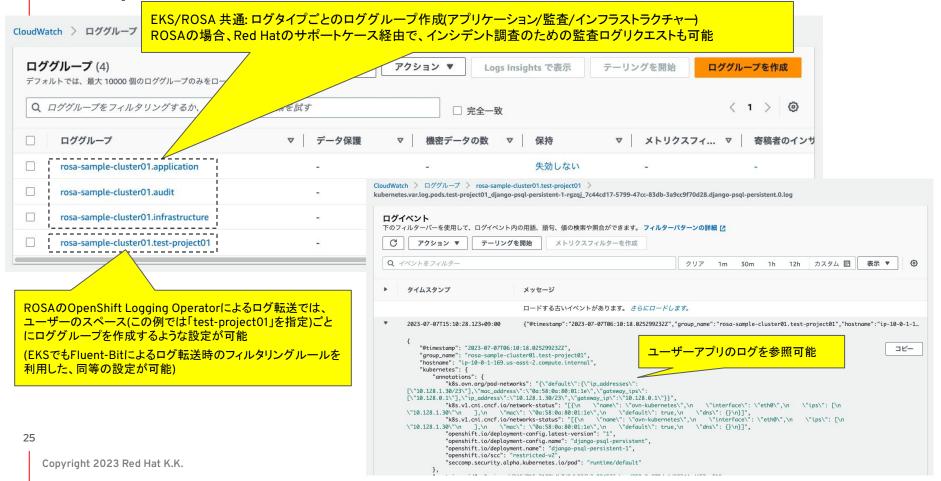


(User_A)

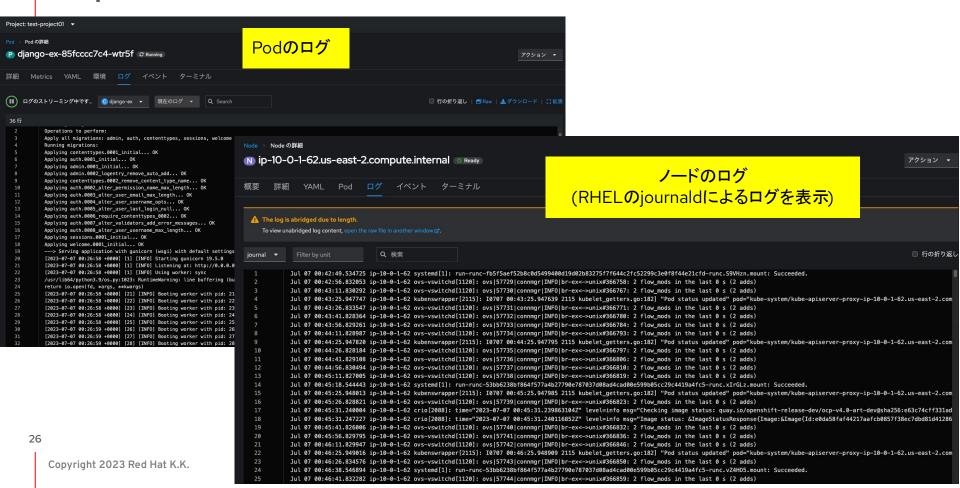
※ OpenShift Logging (Loki) も利用できますが、Lokiのサポートに必要な要件が、 vCPU:36以上/メモリ:63GB以上、と大きなサイズとなりますので、ご注意ください。



EKS/ROSAでのCloudWatchによるログ集約のイメージ

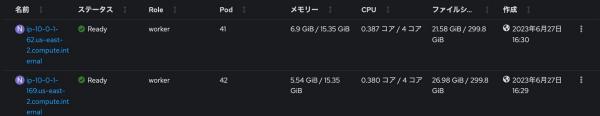


OpenShiftのコンソールでのログ確認



OpenShiftのモニタリング (Prometheus)





OpenShiftのモニタリング (Prometheus) ※ユーザーは自分のアプリに関する情報しか見えない状態

時間の範囲 Project: test-project01 ▼ ユーザーは自分のPodについて、 30 秒 最後の 30 分 AMPと類似したコンソールによるメトリクス確認が可能 モニタリング カスタム時間範囲 更新オフ Metrics アラート イベント 最後の5分 15秒 ダッシュボード 時間の範囲 更新間隔 最後の15分 30秒 Kubernetes / Compute Resources / Namespace (Pods) 最後の 30 分 30秒 -最後の 30 分 1分 最後の1時間 CPU Utilisation (from requests) 検査 CPU Utilisation (from limits) Memory Utilisation (from Memory Utilisation (from limits) 検査 5分 requests) 最後の2時間 61.09% 61.09% 15分 最後の6時間 30分 最後の12時間 1時間 最後の1日 > CPU Quota CPU Usage 最後の2日 2時間 ▼ Memory Usage 最後の1週間 2023年7月7日 15:42:55 1日 Memory Usage (w/o cache) postgresql-1-8ff4m 0.013 diango-psgl-persistent-1-rgzgi 4.9e-4 最後の2週間 sample-net-app01-57b9df9ff7-fpv52 1.8e-4 238 4 MiR = diango-ex-85fcccc7c4-wtr5f 1.2e-4 2023年7月7日 15:46:10 quota - limits quota - requests diango-psgl-persistent-1-razgi 246.9 MiB diango-ex-85fcccc7c4-wtr5f 231.4 MiB sample-net-app01-57b9df9ff7-fpv52 113.2 MiB postaresal-1-8ff4m 34.05 MiB クエリーブラウザーのチャート quota - limits quota - requests null 28 django-ex-85fcccc7c4-wtr5f quota - requests django-psql-persistent-1-rgzqj quota - limits Copyright 2023 Red Hat K.K. postaresal-1-8ff4m sample-net-app01-57b9df9ff7-fpv52

メトリクスの時間範囲や 更新間隔も適宜設定可能

更新間隔

EKS/ROSA 利用時の月額(730時間)料金イメージ その2

※ ROSAのHosted Control Planeでは、ユーザーのAWSアカウント上にあるInfra/Control のEC2インスタンスが無くなり、料金請求も発生しなくなります。

- 基本的には、サンプルユースケース その1と同じ利用条件と計算過程を想定 (P.20 参照)
- EKS/ROSA以外に利用するAWSサービスは、CloudWatchとManaged Service for Prometheus (AMP)を想定
- CloudWatchでは、ログの収集と保存のみを利用すると想定
- AMPでは、下記の「Example 1 EKS on EC2 and Kubernetes」のシナリオを想定
 - https://aws.amazon.com/jp/prometheus/pricing/

AWSサービス	利用料金 (USD)
EKS (0.10USD/hour/cluster)	73 (0.10 x 730)
EC2 インスタンス (Worker) (m5.xlarge x3, 0.248USD/hour EBS(gp3): 300GB, 0.08USD/GB/month)	615.12 (0.248 x 3 x 730 + 300 x 3 x 0.08)
CloudWatch (10GB/month のログサイズを想定 ログ収集 0.76USD/GB/month ログ保存: 0.033USD/GB/month)	7.933 (0.76 x 10 + 0.033 x 10)
AMP (メトリクスのストレージは、3.34GB)	81.75

AWSサービス	利用料金 (USD)
ROSA サービス料金 (Cluster fee: 0.03USD/hour/cluster Worker Node service fee: 0.171USD/4vCPU/hour)	396.39 (0.03 x 730 + 0.171 x 3 x 730)
EC2 インスタンス (Worker) (m5.xlarge x3, 0.248USD/hour EBS(gp3): 300GB, 0.08USD/GB/month)	615.12 (0.248 x 3 x 730 + 300 x 3 x 0.08)
EC2 インスタンス (Infra)※ (r5.xlarge x3, 0.304USD/hour EBS(gp3): 300GB, 0.08USD/GB/month)	737.76 (0.304 x 3 x 730 + 300 x 3 x 0.08)
EC2 インスタンス (Control)※ (m5.2xlarge x3, 0.496USD/hour EBS(Provisioned io1): 350GB, 0.142USD/GB/month)	1235.34 (0.496 x 3 x 730 + 350 x 3 x 0.142)
CloudWatch (10GB/month のログサイズを想定 ログ収集 0.76USD/GB/month ログ保存 0.033USD/GB/month)	7.933 (0.76 x 10 + 0.033 x 10)

29

まとめ: ECS/EKS/ROSAのどれを使うべきか??

- アプリ開発や実行のために、様々なAWSネイティブのサービスを活用したい
- Kubernetes (K8s) や関連するCNCFプロジェクトは使わない

ECS

• 最小限のインフラコストでKubernetes環境を利用したい

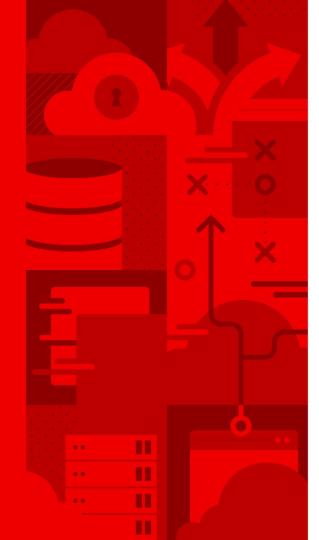
EKS

- K8sのセキュリティ設定に関するノウハウがある
- 選択したOSS、K8sアドオンやAWSサービスを合わせた運用体制を構築済み
 - 各サービスを組み合わせて商用レベルの開発・運用環境を構築可能
 - AWS IAMの設定やクラスター内のIAM利用設定を実現可能
 - AWSによるIAM標準ポリシーのアップデートにも対応可能な体制がある
- コンテナを実行するためのミドルウェアのサポートが不要
 - 脆弱性対策やトラブルシューティングなどを自力で実施可能
- K8sレイヤやコンテナ開発/運用に必要なコンポーネントが パッケージングされた製品を活用したい

ROSA

- 基盤構築に必要な時間を短縮したい
- セキュリティが強化されたK8sを利用したい
- AWS IAMの設定やクラスター内のIAM利用設定の手間を、最小限に抑えたい
- 他サービスと統合されたコンソールを利用したい
- Red HatによるコンテナのOS(RHEL)やミドルウェアのサポートが必要
 - 脆弱性対策やトラブルシューティングなどの支援を依頼したい。





Thank you

Red Hat is the world's leading provider of enterprise open source software solutions. Award-winning support, training, and consulting services make Red Hat a trusted adviser to the Fortune 500.

- in linkedin.com/company/red-hat
- f facebook.com/redhatinc
- youtube.com/user/RedHatVideos
- twitter.com/RedHat

